

◁第6回年会報告▷

第6回年会を終えて

実行委員長 太田 俊明 (東京大学理学部)

第6回日本放射光学会年会は5月10日(月)、11日(火)の2日間、東京大学本郷キャンパスの山上会館と理学部化学教室で開催されました。これまで、東京、東京、大阪、名古屋、仙台で開催され、今回また東京で行われることになり、ちょうど私の転任とタイミングが合ったため実行委員長という大役を仰せつかることになりました。といっても、副委員長の尾嶋正治行事幹事が実質的に全てを取り仕切ったおかげで、非常にスムーズに計画を進めることができました。今回の年会で腐心したことは、少しでも参加者を増やし、活気の溢れる会議にする事でした。東大は比較的便利の良いところがありますが、200人から300人程度の会議に対してなかなか適切な規模の会場が無いという難点があります。キャンパスの中をいろいろ物色した後、結局、山上会館の1階、2階全室と理学部化学教室の講堂を含む5階のフロアを借りきることにしました。しかし、そのころ化学教室の建物は改修工事中であり、工事が延びるのが通例な大学でどうなることか冷や汗ものでしたが、会議開催の前週にやっと清掃と電気工事が終わり、ぎりぎり間に合わせることができました。一方、山上会館の方は企業展示をどこにするか、ポスター会場をどうするかなかなか決まりませんでした。会館側がかなり融通していただき、何とか形をつけることができました。

プログラムについては、佐藤能雅委員長のもとに合計3回の会議を開き、前回の佐藤繁(東北大理)実行委員長のご意見なども参考にして、従来に無いいくつかの特長を持たせることにしまし

た。まず、会議開催期間を3日間から2日間に短縮し、それだけ中身を濃くすることにしました。そして、今回特に放射光の応用面に重点を置き、特別企画として「化学と放射光」を取り上げました。また、特別講演は、特別企画と歩調を合わせて、UVSORの産みの親であり、化学界の大御所である分子研所長(現 岡崎共同研究機構長)の井口洋夫先生と、ちょうど年会のときNTTの招待で来日予定のミュンヘン大学のパテール教授にお願いすることに決まりました。また、2日目には二つの企画と二つのシンポジウムを計画し、午前中は「測定・検出」、「自由電子レーザー」を、そして、午後には「生命科学と放射光」と「磁性と放射光」のシンポジウムを並行して行うことにしました。そして、一般講演は全てポスターにしました。ポスターの申込も比較的順調で、最終的には150件近くになり、レイアウトが大変になるほどでした。

さて、プログラムも決まり、全ての計画も順調に進んでいた矢先、3月末になって、パテール教授から、スキーで足を複雑骨折し、手術のため来日できないというショッキングなFAXがきました。これまで招聘の為に何度となく手紙やFAXのやりとりをしてきた尾嶋副委員長の落胆は大きいものでした。本年会の目玉と思っていたので残念でしたが、やむをえず、いろいろ代替案を考え、結局、これまでの放射光学会長の話を中心に「放射光科学の将来」を議論するパネル討論会を開くことに決まりました。

会議初日5月10日は久しぶりの雨降り、会議

が始まったときは出席者も少なくどうなることかと心配でしたが、本講演にはいると会場もほぼ埋まり活発な会議が行われほっとしました。特別企画「化学と放射光」では、化学の分野でどのような放射光利用が行われているかを五人の第一線の先生にレビューしてもらいました。午後はポスターセッションが山上会館で行われましたが、非常に熱気に包まれていたように思います。午後の井口先生の特別講演は、放射光との関わり、UVSOR建設の歴史など興味深いものでした。その後のパネル討論は千川先生、石井先生、岩崎先生といういずれ劣らぬ名役者を揃えたおかげで、面白い、しかし、厳しい警句も交えたお話を聴くことができ、思わず時間の超過を忘れてしまいました。総会の後、山上会館で懇親会が開かれましたが、会費5千円では考えられない豪勢なものでした。

翌11日は5月晴れのさわやかな日で、朝9時から二つの企画が、また、午後2時半から2つのシンポジウムが化学教室講堂と山上会館大会議室で開かれました。ポスターセッションは締切後のかけ込みポスターにアメリカ在住の波岡先生の新しい分光光学系の発表や、光電子角度分布の円偏光依存性のホットな実験の紹介も加わり、前日同様活気に満ちたものでした。

企業展示には、不景気にも関わらず、23社が参加して下さり、山上会館の2階のフロアがちょうどいっぱいになりました。安い会費でこのような年會が開催できるのも全て参加して頂いた企業のおかげであり、感謝に堪えません。

参加者は2日目にも増えて、当初の予想を越えて312名になりました。この参加者中で50名ほど学生の参加があったことは特筆すべきだと思います。これは学生会費を500円と格安にしたことが要因でしょうが、これからの放射光を担う若手を

育成していくためにも良かったことと思います。

年會を振り返ってみて、ポスター会場が通り抜けられないほど狭かったこと、山上会館の冷房が故障中で暑くて大変だったこと、企業展示に出す資料の宅配便が手違いで間に合わず迷惑をお掛けしたことなど、いろいろ失敗がありますが、総じて成功であったのではないかと思います。これには、ご多忙中にも拘らず講演して下さった先生方、ポスター発表に協力していただいた参加者の皆さん、そして、何よりもこの年會の為にこの1年間献身的に努力していただいた日本放射光学会の西野三和子さんと尾嶋正治副委員長をはじめとする実行委員会、プログラム委員会のメンバーのおかげです。最後にメンバーのリスト(敬称略)を掲げ、謝意を表したいと思います。

実行委員会

副委員長：尾嶋 正治 (NTT境界研)
 庶務係：泉 弘一 (東大工)
 宇佐美徳子 (高エ研)
 会場係：北島 義典 (高エ研)
 水木純一郎 (NEC基礎研)
 企業展示：内海 裕一 (NTTLSI研)
 堀井 義正 (富士通厚木研)

プログラム委員会

委員長：佐藤 能雅 (東大薬)
 副委員長：水木純一郎 (NEC基礎研)
 委員：早石 達司 (筑波大物理工)
 平井 康晴 (日立基礎研)
 佐々木 聡 (東工大工材研)
 兵藤 一行 (高エ研)
 中村 典雄 (高エ研)
 朝倉 清高 (東大理)
 尾嶋 正治 (NTT境界研)



写真1 特別企画『化学と放射光』
講演中の東工大旗野教授



写真4 懇親会風景①
『挨拶ばかり回ってくるよ』と菊田会長
『そう言わず、まあ一杯』と水木氏(司会)



写真2 特別講演『放射光利用の化学』
講演中の分子科学研究所井口教授



写真5 懇親会風景②
思わずニヤリ!と喜ぶ太田委員長
『私も入れて』と川崎氏



写真3 講演会場を抜けて休憩中です!
『おっと、見つかった!』

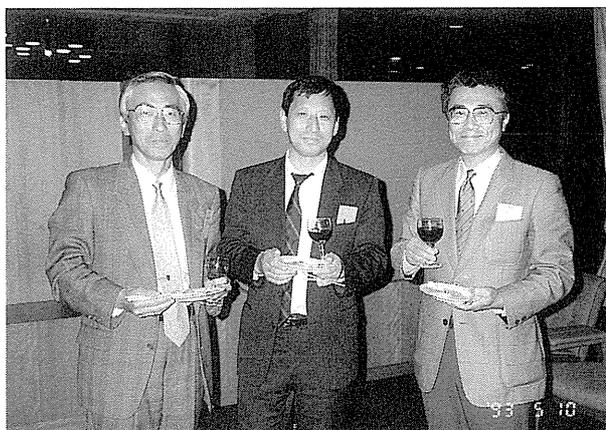


写真6 懇親会風景③
次回年会実行委員長の菅先生(左)
来年は大阪で『たのんまっせ!』

<写真と駄文;尾嶋>



写真7 懇親会風景④
井口先生と冨家先生
『まだまだ、若いモンにはー』

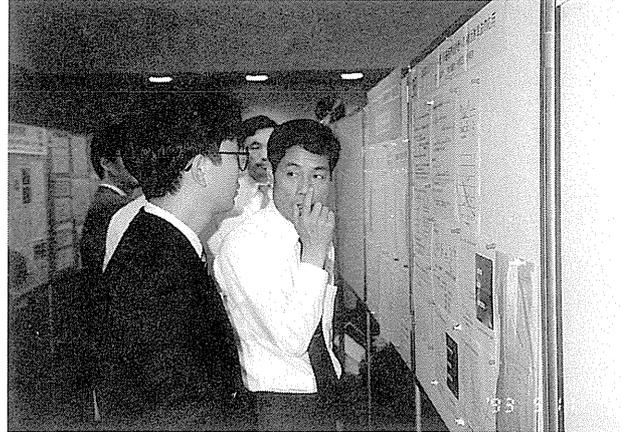


写真10 ポスターセッション
今回は140件ものポスター発表があり、白熱(?)
した議論が行われた。『えー！もうおしまい?』



写真8 懇親会風景⑤
受付などで頑張った女性陣
『その分、しっかり食べてまーす』



写真11 企業展示
今回は23の企業に参加して頂いた。
『おかげ様で年会も盛り上がりました』(太田委員長)

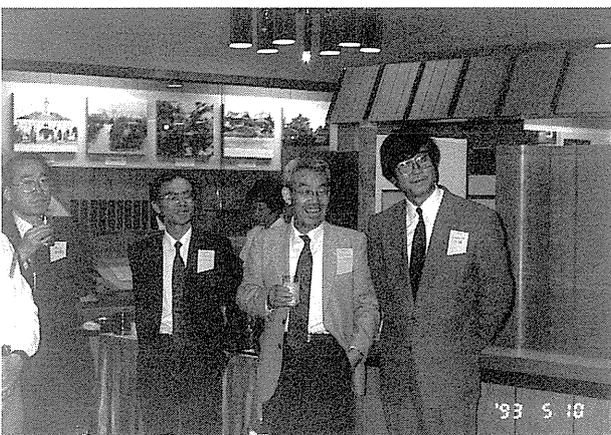


写真9 懇親会風景⑥
『今回もうまくいったね』『プログラムが良
かったからでしょう』佐藤プログラム委員長



写真12 展示場の後片づけが終わって記念写真
実行委員とアルバイトの方々『ご苦労さまでした』